

# 由良川流域の前方後円墳集成

三好 博喜

## 1. はじめに

古墳時代研究の主要テーマのひとつに前方後円墳がある。京都府北部を流れる由良川流域では、現在までに確認されている前方後円墳の数は円墳や方墳に比して圧倒的に少なく、中流域に集中する傾向にある。現状では、分布調査を試みても新たに見つかることは滅多にない。筆者は、この10年余り綾部市域をフィールドとし、機会をみては山野に分け入ってきた。この間、2基の前方後円墳を新たに発見することができた。円丘部での期待感、くびれ部での高揚感、前方部での安堵感。考古学をやっていてよかったと思うときである。

こうした発見も資料として提示されなければ考古学的な価値は低いままである。

かつて当地では山城考古学研究会が精力的に測量作業を行い1983(昭和58)年『丹波の古墳Ⅰ』<sup>(注1)</sup>を刊行した。その後1992(平成4)年『前方後円墳集成』<sup>(注2)</sup>で集成されたものの『丹波の古墳Ⅰ』を越える内容ではない。

本稿では、『丹波の古墳Ⅰ』以降、新たに発掘調査や測量作業などで提示された前方後円墳の墳丘図を含めた集成を行うことを目的とした。そして墳丘図を比較するなかで将来の編年作業に向けての若干の考察を加える。なお既存の測量図の解説は『丹波の古墳Ⅰ』を参照願いたい。

由良川流域(兵庫県域を除く)の前方後円墳の分布は、中流域の綾部・福知山盆地に集中している。便宜的に綾部市域を東部地区・福知山市域を西部地区とした。

一覧表の計測値は『京都府遺跡地図第2版』1987を基に、『丹波の古墳Ⅰ』および『前方後円墳集成』、各掲載文献<sup>(注3)</sup>から採った。計測値は文献により若干異なる場合がある。

## 2. 新規提示された前方後円墳資料

### (1) 岫山3号墳(No.2. 文献23)

犀川上流域の綾部市物部町岫山に所在する。立地は標高約104mの丘陵頂部で、周囲の水田との高低差は約60mある。墳丘の規模は、全長35.0m・後円部径22.0m、後円部高3.5m、前方部幅13.0m、前方部高2.5mを測る。後円部と前方部との高低差は約2.6mあり、前方部

No.	名称	所在地	主軸方向	全長	後円部		前方部		くびれ部幅
					径	高	幅	高	
1	岫山1号墳	綾部市物部町岫山	N175W	47.4	27.2	3	24	3	14
2	岫山3号墳	綾部市物部町岫山	N27W	35	22	3.5	13	2.5	10
3	須波伎東古墳	綾部市物部町下山	N	35.5	20.5	1.5	15	4.5	12
4	稲荷山古墳	綾部市向田町小狭	N160W	30.5	18.5	3	18.4	1	9.5
5	ニワトリ塚古墳	綾部市白道路町亀ヶ谷	未測量	24	14	3.5	7	2	
6	高槻茶臼山古墳	綾部市高槻町茶臼山	W	54	34	5.5	30	3.5	17
7	野崎5号墳	綾部市高槻町野崎	N150W	26	19	-	13	-	10
8	上杉4号墳	綾部市上杉町奥山	N117W	33	25	5.5	17	1.5	11
9	上杉1号墳	綾部市上杉町洪市	消滅	45	18	4.2	—	—	—
10	四文字山1号墳	綾部市私市町西四文字山 福知山市私市	N155E	35	22	3.6	10	1.6	10
11	沢3号墳	綾部市栗町沢	N25W	46	24	4	26	4.5	20
12	殿山1号墳	綾部市豊里町裏山	N130W	47	30	5.5	24	5	15
13	以久田野78号墳	綾部市栗町大野	N060W	38	23.5	3.6	25	3.5<	14.5
14	以久田野16号墳	綾部市栗町大谷	消滅	43.2	21.3	2.5		2	
15	以久田野15号墳	綾部市栗町大谷	未測量	41	21	2		2	
16	上村西古墳(仮称)	綾部市栗町城山	不明確	33	24		16	4	
17	上村7号墳	綾部市栗町城山	N38W	36	21	3	10	1.5	5
18	瀬戸18号墳	綾部市位田町瀬戸	N115W	40	26	4	11	2.6	7
19	久田山D1号墳	綾部市里町久田・坪	N155W	24.5	18	3.3	7	0.5	7
20	久田山F1号墳	綾部市里町久田	N140W	29.2	20.8	3	13.6	1	10.6
21	久田山F3号墳	綾部市里町久田	N170W	29.5	18.5	3.25	12	1.5	9.2
22	桧山5号墳	綾部市有岡町桧山	N89W	45	23	3.5	25	4.1	13
23	城跡古墳	綾部市多田町峠	未測量	40	14	3	17		-
24	牧正一古墳	福知山市牧小字中筋	N055E	35	21	3	23	3	12
25	牛坂1号墳	福知山市猪崎小字牛坂	W	26.8	18.8	2.5			
26	監物山1号墳	福知山市猪崎小字監物山	不明確	35	21.3	2			
27	稲葉山10号墳	福知山市猪崎小字ボヤシキ	N085W	38	24.5	3.8	21	3.1	12.5
28	広所1号墳	福知山市猪崎小字広所	未測量	30	16	2			
29	東山12号墳	福知山市猪崎小字東山	未測量						
30	東山18号墳 (記録寺山6号墳)	福知山市川北小字記録寺	前方後円墳としては認定しがたい。						
31	男塚古墳	福知山市大内小字新戸	N060W	28	21	2.5	17.5	4	15.5
32	水内古墳	福知山市堀小字水内	前方後円墳と伝承されるが不確定。						
33	広峯15号墳	福知山市天田小字広峯	N060W	40	25	3.5	13	2	10
34	中之段16号墳	福知山市正明寺小字中之段	未測量	26		2			
35	妙見11号墳	福知山市大門小字妙見	W	39.1	23.4	5	24.6	3	14.2

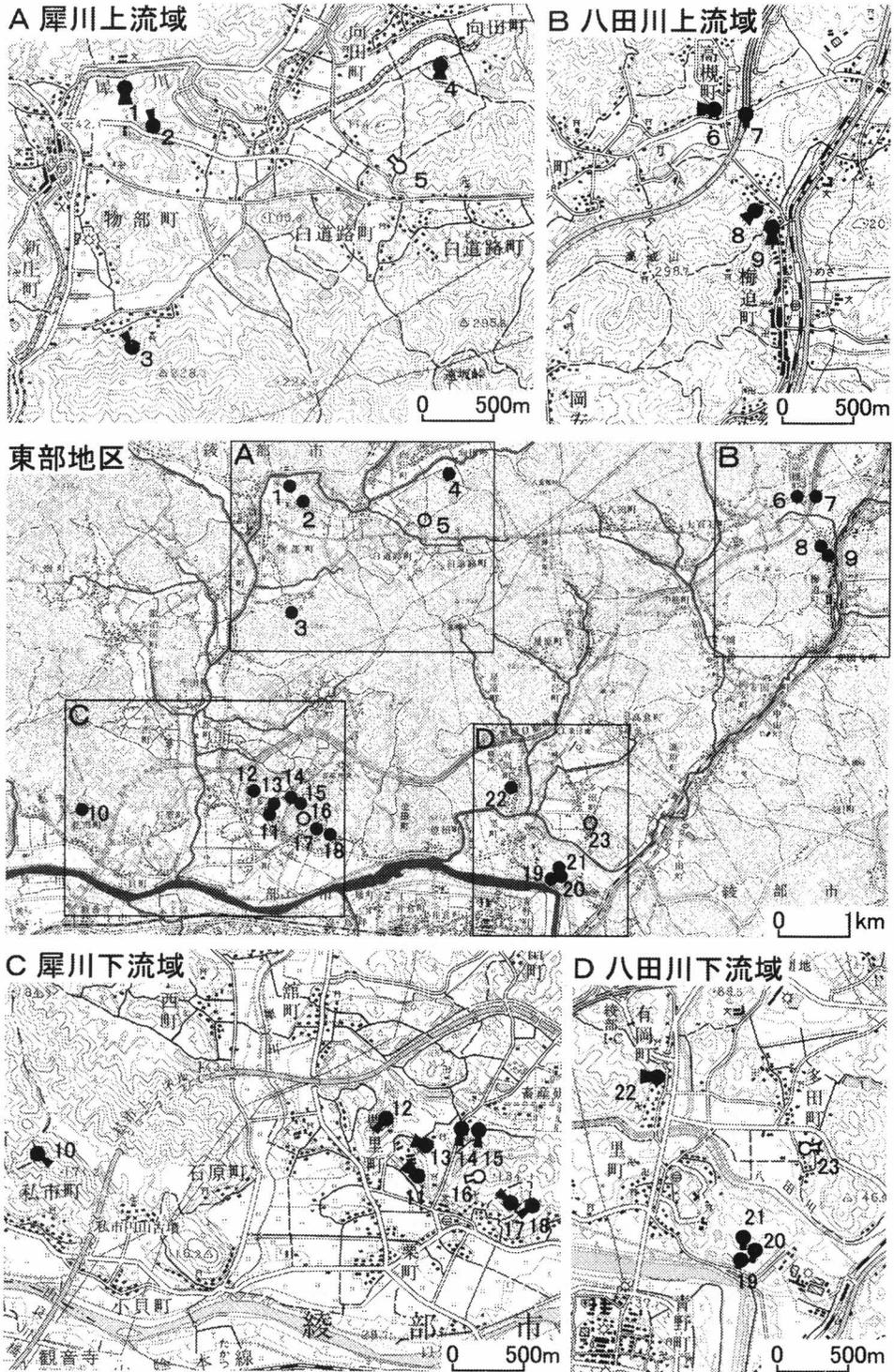
第1表 由良川流域(京都府域)前方後円墳一覧表

(計測値の単位はm)

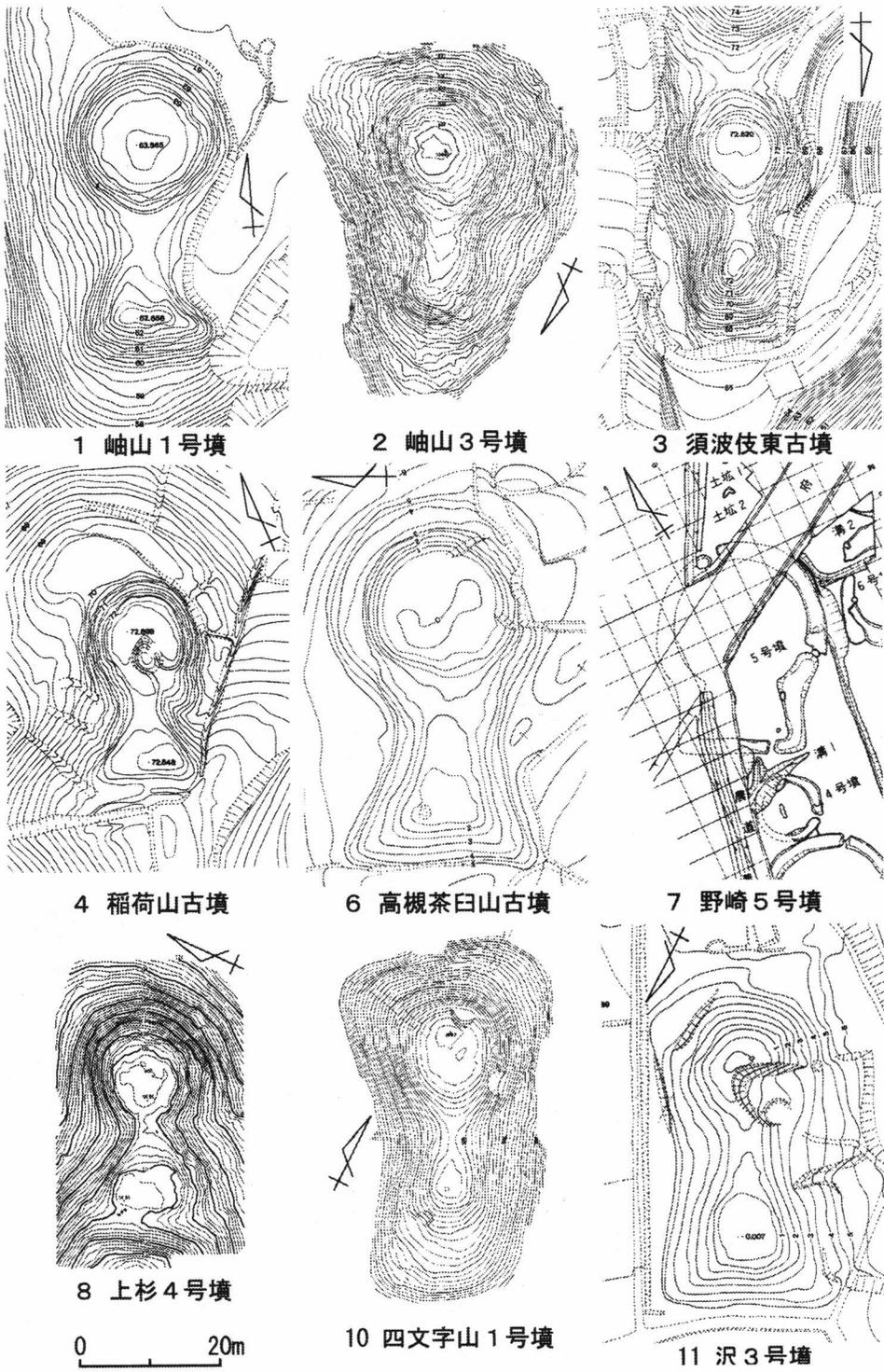
前後 比高	平地 比高	立地	時期	状態	主要 文献	特記事項／出土遺物
1.0	15	丘陵端	中期後	完存	*6	後円部2段築か／
2.6	60	丘陵頂	前期後	完存	*23	後円部不整形円形／
0.5	30	丘陵腹	中期後	完存	*6	／
0.0	10	丘陵端	後期前	半壊	*6	後円部既掘坑／
	0	丘陵裾	不明	半壊		／
1.5	10	丘陵端	中期後	完存	*4・*6	2段築／須恵器杯・壺
-	4	台地	中期末	消滅	*10*13	周溝／須恵器高杯・土師器壺・高杯
-0.8	30	丘陵端	後期前	完存	未発表	／
—	30	丘陵端	後期中	消滅	1	横穴式石室か／馬具・直刀・須恵器・埴輪(円筒・人物)
1.0	140	丘陵頂	前期後	完存	*17*18	後円部不整形円形／
0.0	9	丘陵裾	中期後	半壊	*6	2段築成・葺石・埴輪・礫床か／頸甲・三環鈴・f字形鏡板・斧
0.0	80	丘陵頂	中期後	完存	*6*20	後円部に経塚／須恵器壺
—	43	台地	後期前	完存	*6	後円頂部既掘坑・前方部削平／円筒埴輪
—	40	台地	不明	消滅		粘土槲か／
	40	台地	不明	半壊		粘土槲か／
	70	丘陵稜	不明	完存		／
0.9	40	台地	後期中	半壊	*25	後円部既掘坑・前方部削平・横穴式石室／須恵器
1.2	40	台地	後期前	完存	*26	後円部既掘坑／
2.5	45	丘陵頂	中期中	完存	*6	帆立貝式・周溝／
2.0	37	丘陵稜	中期末	完存	*6	周溝／
1.75	37	丘陵稜	中期後	完存	*6	周溝／
-0.6	30	丘陵端	後期前	半壊	*19	後円部に祠・前方部削平・山城で改変／須恵器杯
	0	丘陵裾	不明	半壊		／
-0.25	6	台地	後期後	半壊	*2*5*6 *15	横穴式石室2／刀・鏃・刀子・釘・金銅環・杏葉・雲珠・須恵器子持台付壺・台付長頸壺・壺・甕・高杯・盃・杯・器台・土師器器台
	30	丘陵稜	不明	完存	*7	／
—	30	丘陵頂	不明	半壊	*7	上部削平・詳細不明／
0.7	30	丘陵端	後期前	完存	3*6	埴輪列・礫床／鏃・須恵器杯・高杯・短頸壺・壺・埴輪(円筒・朝顔・家・人物・馬ほか)
	40	丘陵稜	不明	完存		／
	30	丘陵稜	不明	完存		／
	30	丘陵頂	不明	完存	*6	山城に利用・変形／
0.5	8	丘陵端	後期後	完存	*6	横穴式石室・後円部既掘坑／須恵器高杯・蓋
—	20	丘陵腹	中期後	消滅		埴輪列／円筒埴輪(線刻画)
1.5	32	丘陵稜	前期後	消滅	*11	木棺直葬／盤龍鏡・劍・槍・斧・ヤリガンナ・管玉
	10	丘陵稜	後期中	完存	8	横穴式石室／
1.3	15	丘陵稜	後期中	完存	*6*24	横穴式石室・後円部既掘坑／

主要文献の\*印は測量図を掲載する文献、太字は測量図を引用した文献。

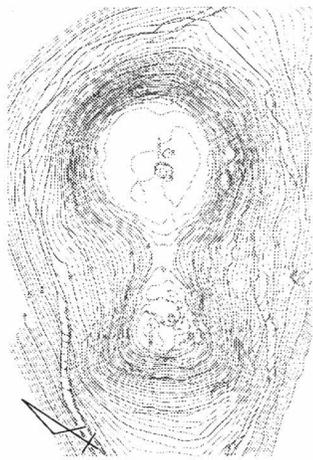
第1表 由良川流域(京都府域)前方後円墳一覧表(続き)



第1図 東部地区前方後円墳分布図



第2図 墳丘測量図(1)



12 殿山1号墳



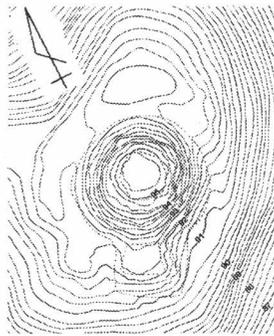
13 以久田野78号墳



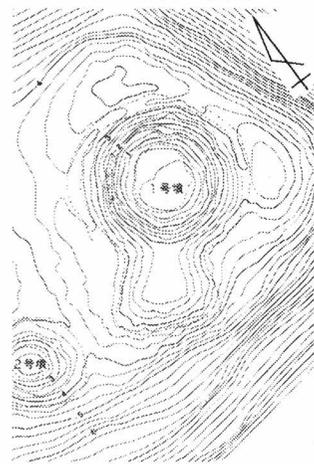
17 上村7号墳



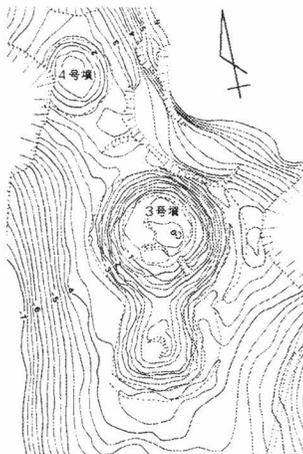
18 瀬戸18号墳



19 久田山D1号墳



20 久田山F1号墳



21 久田山F3号墳

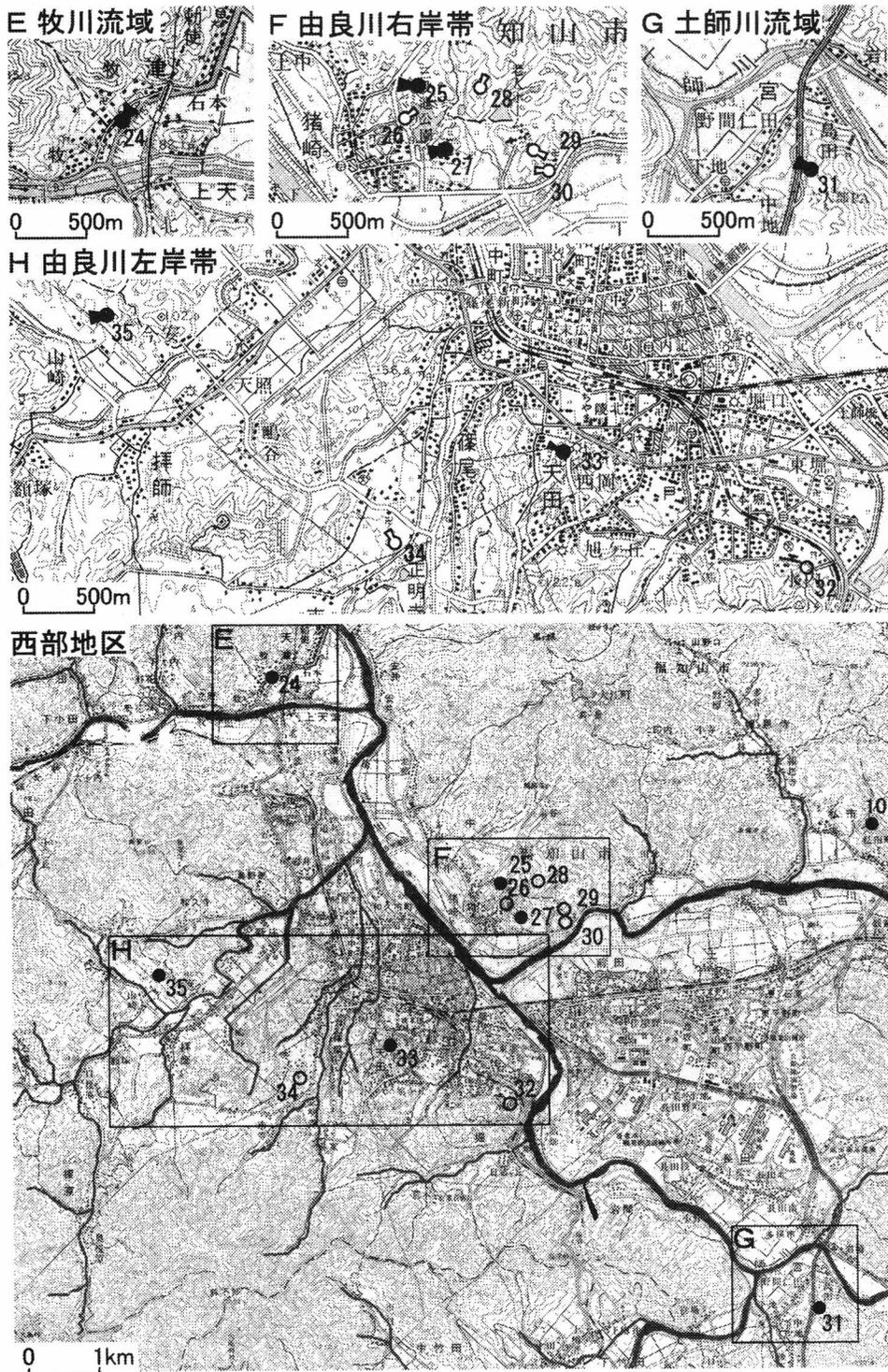


22 桧山5号墳

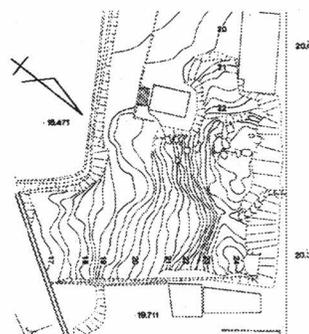
0 20m

引用した測量図は縮尺・方位印を統一している。原図の縮尺の違いにより、濃淡が異なる場合がある。

第3図 墳丘測量図(2)



第4図 西部地区前方後円墳分布図



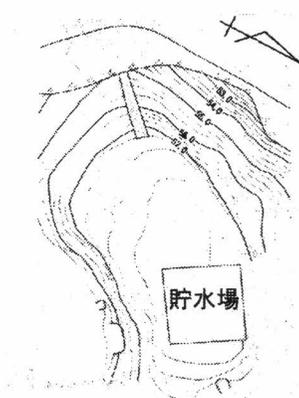
24 牧正一古墳



25 牛坂1号墳



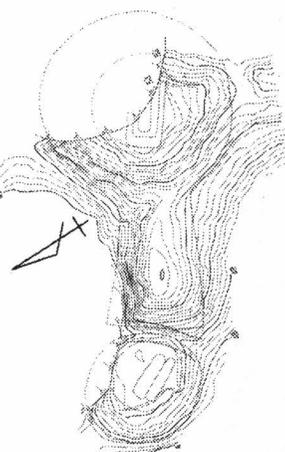
31 男塚古墳



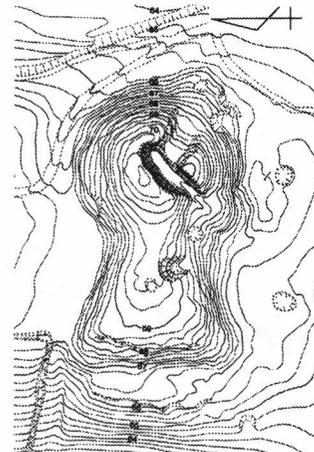
(26 監物山1号墳)



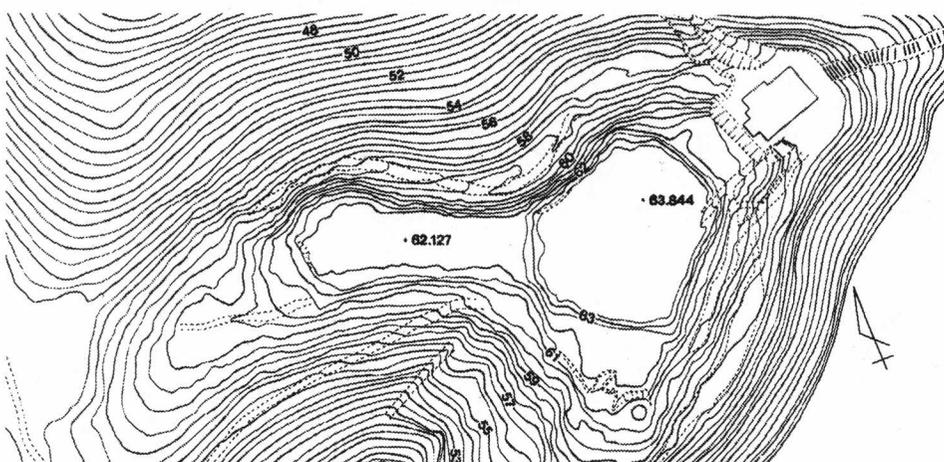
27 稲葉山10号墳



33 広峯15号墳



35 妙見11号墳



(30 東山18号墳)

0 20m

第5図 墳丘測量図(3)

が低い。主軸の方向は北北西を向く。表面で観察する限り、段築・葺石・埴輪などの外表施設は確認できなかった。後円部東側に8m×5m程度の台形状の張り出しが認められるが、古墳に伴う施設かは不明である。採集遺物もない。

前方部があまり開かない点や後円部と前方部の高低差が大きいという点は、古式の前方後円墳の特徴を備えている。墳形自体も定型化しておらず、歪な卵形の後円部に前方部が取り付く。このような形状は福知山市広峯15号墳や四文字山1号墳に通ずるものがある。いずれもその地区での最高所を占めるという共通点がある。岫山3号墳も当該地域では最高所に位置する前方後円墳であることから、岫山1号墳に先行する古式の前方後円墳である可能性が高い。

(2)野崎5号墳(No.7. 文献10・13)

八田川上流域の綾部市高槻町野崎に所在する。1986(昭和61)年度、近畿自動車道敦賀線(当時)建設に伴う発掘調査で周溝の一部を検出した。立地は標高99mの台地縁辺で、周囲の水田との高低差は約5mある。墳丘規模は復原全長26m・後円部直径19m・前方部幅13m・くびれ部幅約10m。主軸の方向は南西を向く。墳丘は削平により消失していた。周溝は幅2～3m(くびれ部では4.5m)、深さ0.36～0.55m(後円部北側では0.2m)を測り、3か所に陸橋状の掘り残し部分がある。溝内から土師器片(甕・高杯など)・須恵器片(高杯が主)が出土した。

前方部の長さが8.4mとやや短いのが特徴である。野崎5号墳の築造時期は確定できないが、茶臼山古墳と上杉1号墳の間に入ると思われる。野崎古墳群は5世紀末から6世紀中ごろまでに築造されたとしている。

(3)上杉4号墳(No.8. 未発表資料)

八田川上流域の綾部市上杉町奥山に所在する。2005(平成17)年2月14日踏査により発見した。立地は標高130mの丘陵端で、周囲の水田との高低差は約30mある。墳丘規模は全長33m、後円部径25m同高5.5m、前方部幅17m、同高1.5m、くびれ部幅11mである。前方部高が後円部高よりも0.8m高い。主軸の方向は西南西を向く。表面で観察する限り、段築・葺石・埴輪などの外表施設を確認できなかった。採集遺物もない。詳細は別稿で行う予定である。

前方部側を浅く切り離す丘尾切断により墳丘を築造している。後円部径と前方部幅が等しく、前方部が後円部よりも高い形態は後期古墳であることを示している。

(4)四文字山1号墳(No.10. 文献17・18)

犀川下流域の綾部市と福知山市との市境に所在する。1997(平成9)年12月22日踏査により発見した。立地は標高169.7mの丘陵頂部で、周囲の水田との高低差は約140mある。墳

丘規模は、全長35m、後円部径22m×20m・頂部平坦面12m×9m・後円部高3.6m、前方部幅10m・前方部高1.6mである。後円部と前方部との高低差は約1mで、前方部が低い。主軸の方向は南南東を向く。表面で観察する限り、段築・葺石・埴輪などの外表施設は確認できなかった。採集遺物もない。

狭い丘陵頂部を最大限有効に利用して築造された前方後円墳である。墳形は定型化しておらず、典型的な前方後円墳とは形態を異にしている。このため、典型的な前方後円墳出現までには時間幅があると予想される。また、私市円山古墳と近接する地域にあることから、私市円山古墳以前の築造と考えられる。こうした点から、広峯15号墳と同様に4世紀後半から5世紀初頭と考えたい。

(5) 上村7号墳(No.17. 文献25)

犀川下流域の綾部市栗町上村に所在する。1996(平成8)年3月18日踏査により前方後円墳と認識した。立地は標高72mの台地縁辺で、周囲の水田との高低差は約40mある。墳丘は台地縁辺に築かれているため、台地上での大きさと沖積地側からみた見掛けの大きさがある。台地上の規模は、全長36m・後円部径21m・同高3m・前方部長15m・同幅10m・同高1.5mである。沖積地側(南西)からの見掛けの規模は、全長40m・後円部径21m・同高5m・前方部長19m・同幅20m・同高3.5mになる。後円部には南東側に向かって開口するこの既掘坑があり、横穴式石室墳だったことを伺わせる。前方部は主軸に沿って削り取られている。主軸の方向は北西を向く。表面で観察する限り、段築・葺石・埴輪などの外表施設は確認できなかった。採集遺物には6世紀末前後の時期の須恵器片がある。

上村7号墳の立地する台地は、由良川沿いの平地からよく見える場所に当たっている。墳丘の西側は、台地斜面裾も墳丘に取り込んでいていると考えられる。台地縁辺に古墳を築造したのは、平地から見上げた時に大きく見せる効果をねらったのであろう。横穴式石室墳である点や採集遺物から6世紀中葉以降の築造であろう。

(6) 瀬戸18号墳(No.18. 文献26)

犀川下流域の綾部市位田町瀬戸に所在する。1996(平成8)年3月4日踏査により発見した。立地は標高75mの台地上で、周囲の水田との高低差は約40mある。復原規模は、全長約40m、後円部長径約26m・短径約20m・高さ約4m、前方部長さ約18m・前端口幅約11m・高さ約2.6m、くびれ部幅約7mを測る。くびれ部には造出しと思われる基部長約6m・短辺約3m・幅約2m・高さ0.3mの張り出しがある。主軸の方向は西南西を向く。後円部には既掘坑がある。表面観察では、段築・葺石・埴輪などの外表施設は確認できなかった。採集遺物もない。

綾部市内での前方後円墳のあり方は、単独もしくは数基の円墳を伴う程度で古墳群を形

成するものが多い。そのなかにあつて多くの円墳を従えており、古墳群築造の契機となつたといえる。他の円墳の多くは横穴式石室墳であるが、瀬戸18号墳が横穴式石室墳であるかどうかは不明である。

(7) 桧山5号墳 (No.22. 文献19)

八田川下流域の綾部市有岡町桧山に所在する。1995(平成7)年12月20日踏査により発見した。立地は標高約78mの丘陵端で、周囲の水田との高低差は約30mある。墳丘規模は、復原全長45m・後円部径23m、同現存高3.5m、復原前方部幅25m、同現存高4.1mを測る。後円部と前方部との高低差は現状で約0.6mあり、前方部が高い。主軸の方向は西を向く。表面で観察する限り、段築・葺石・埴輪列などの外表施設は確認できなかった。採集遺物にはTK10併行期と思われる須恵器杯などが若干ある。

桧山5号墳は西からのびる丘陵先端部を利用し、丘尾切断ののち盛土を行つて墳丘を構築している。前方部前端面は大きく抉られ、墳丘西側から南側にかけては墳丘自体の改変がかなり進んでいる。後円部北方向の溝と前方部北側の溝や土塁は、山城の設備と考えられる。後世の攪乱を受けてはいるものの、築造当時の状況はある程度復原可能である。後円部径と前方部幅がほぼ同じである点や前方部が後円部とほぼ同じ高さである特徴は、後期古墳であることを示している。墳丘や採集遺物の特徴から6世紀前葉の築造と考えられる。

(8) 牛坂1号墳 (No.25. 文献7)

西部地区由良川右岸帯の福知山市猪崎小字牛山に所在する。立地は標高54mの丘陵上にあり、周囲の水田との高低差は約30mある。段築・葺石・埴輪などの外表施設を確認されていない。福知山市教育委員会により一部のみ墳丘測量が行われた。地形観察・測量図から53mの等高線付近が墳丘裾。等高線は直線的にコ字にまわり、この東側にはほぼ円形の盛り上がりが続く。主軸の方向は西を向く。トレンチ調査を行つたが、墳丘裾やその他の遺構・遺物は確認できなかった。

(9) 監物山1号墳 (No.26. 文献7)

西部地区由良川右岸帯の福知山市猪崎小字監物山に所在する。立地は標高57mの丘陵頂部にあり、周囲の水田との高低差は約30mある。段築・葺石・埴輪などの外表施設を確認されていない。現状では貯水施設がつくられ、旧状を留めない。トレンチ調査の結果では56mの等高線付近で土層変化を確認し、56mの等高線のめぐり方から前方後円墳の可能性があるとされているが、明確ではない。段築・葺石・埴輪などの外表施設は確認されていない。

(10) 広峯15号墳 (No.33. 文献11)

西部地域由良川左岸の福知山市天田小字広峯に所在する。昭和61(1986)年、造成工事に伴い福知山市教育委員会が発掘調査を実施した。立地は標高約54mの丘陵稜線前面の最高所を占め、周囲の水田との高低差は約32mある。墳丘規模は全長40m、後円部径25m、同高3.5m、前方部幅13m、同高2.0mを測る。後円部頂に0.5mの盛土が認められるだけで、墳丘の大部分は削り出しによって成形されている。前方部側面の基底は区画されていない。後円部の基底と前方部前端基底のレベルが一致しないため、平面形はやや歪む形になっている。主軸の方向は西北西を向く。段築・葺石・埴輪を欠く。埋葬主体は木棺直葬(組合せ式)である。主体部からは盤龍鏡1・鉄剣1・鉄槍1・斧1・鉈1・碧玉製管玉2が出土した。

前方後円墳を採用するものの卓越した規模とはいえず、群内の1墳であり外表施設も欠き、被葬者の限界がうかがわれる。築造時期は4世紀後半と考えられる。

### 3. 今後の課題

今後の編年作業に向けての課題としていくつかの指摘事項を列挙しておきたい。

由良川東部地区では八田川上流域に4基、八田川下流域に5基、犀川上流域に5基、犀川下流域に8基が分布している。犀川下流域の古墳群を除いて、他の各地域においては前後関係をもって築かれた可能性が高い。1地域1系譜ととらえてもよいのかもしれない。このことから犀川下流域には複数の系譜があった可能性が考えられる。

由良川西部地区では、福知山市猪崎周辺を除き、単独でとらえるしかない分布状況を示している。その多くは横穴式石室墳である。猪崎周辺でも確実に前方後円墳としてとらえられるものは数基のみである。調査が充分ではないにしろ、1地域1系譜としてとらえられる。

広峯15号墳・四文字山1号墳・岫山3号墳は、それぞれに地域内での最高所を占めるといふ共通点がある。墳形も後円部が不整形である点、前方部が開かない点、後円部よりも前方部が低い点など共通する点が多い。それぞれを4世紀後葉におき、各地における前方後円墳の先鋒と位置づけたい。現状では八田川上・下流域にはこうした共通性を指摘できる前方後円墳はない。この時期の八田川上・下流域は方墳優位だったと思われる。

岫山1号墳や高槻茶臼山古墳については、前期古墳との指摘がある<sup>(注4)</sup>。しかし、広峯15号墳・四文字山1号墳・岫山3号墳のような定型化する以前の前方後円墳がまず萌芽し、展開するより前に大型方墳(綾部市菖蒲塚古墳・聖塚古墳)の時期を迎え、大型円墳(綾部市私市円山古墳)の時期を迎えたものと理解したい。この地での定型化した前方後円墳の出現は、従来どおり私市円山古墳直後と考えたい。

野崎5号墳は、周溝をもつ点で久田山D1号墳・久田山F1号墳・久田山F3号墳と共通する。平面形では久田山F1号墳に近似する。これらは相前後する時期と考えたい。

須波伎東古墳・稲荷山古墳・上杉4号墳・桧山5号墳・男塚古墳は、明確な丘尾切断方式を採用している。このうち稲荷山古墳・上杉4号墳・桧山5号墳・男塚古墳は墳形が極めて類似している。男塚古墳は横穴式石室墳であることから後期中葉以降の築造であろう。稲荷山古墳・上杉4号墳・桧山5号墳は、前方部がせり上がるか後円部とほとんど同じ高さを呈する。須波伎東古墳のみ前方部が開かない点や後円部よりも前方部が低い点など、異質な点を指摘できる。稲荷山古墳・上杉4号墳・桧山5号墳は内部主体の状況は把握されてはいないが横穴式石室墳ではない可能性が高い。桧山5号墳でTK10前後の須恵器を採集したことから、いずれも後期前葉に位置づけたい。6世紀前葉には八田川上流域・下流域・犀川上流域・下流域の4地域に墳形を同じくする前方後円墳が展開していたことになる。須波伎東古墳はやや古い時期の築造であろう。

以久田野78号墳は丘尾切断方式は採らないものの、稲荷山古墳・上杉4号墳・桧山5号墳・男塚古墳に墳形が近似する。以久田野78号墳では川西編年V期の特徴をもつ埴輪が採集され、埋葬主体部が堅穴系と予測されることから、後期前葉に位置づけられる。

今回新たに提示した10基の測量図のなかで、事前発掘調査に伴い消滅した前方後円墳は2基のみである。既存の資料も含め、多くが現状のまま保存されている。そのほとんどで発掘調査がなされておらず、時期比定を行うには制約が多い。墳丘測量図がその一助となり、多くの方に編年に取り組んでいただければと思う。

(みよし・ひろき＝綾部市教育委員会生涯学習課文化財係総主任)

注1 参考文献6参照

注2 参考文献12参照

注3 主軸の方向は後円部を中心に前方部を見た場合の磁北からの傾きと方角を示している。前後比高は前方部からみた後円部の高低差を示している。平地比高は古墳の立地する地点と周辺の水田耕作可能な平地との高低差を示している。また、分布図中の前方後円墳の位置を示す印のうち白抜きは、前方後円墳であることが確定していないことを意味している。

注4 参考文献21・27参照

#### 参考文献一覧

- 1 梅原末治「東八田村ノ古墳」(『京都府史蹟勝地調査会報告』第4冊)1923
- 2 梅原末治「牧の石室墳」(『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告』第20冊)1940
- 3 中川淳美「稲葉山古墳調査報告」(『福知山史料集』15)1958
- 4 奥村清一郎「綾部市高槻茶白山古墳測量調査略報」(『京都考古』第16号 京都考古刊行会)1975
- 5 村川俊明「福知山市牧正一古墳測量調査略報」(『京都考古』第27号 京都考古刊行会)1982

- 6 山城考古学研究会編『丹波の古墳Ⅰ－由良川流域の古墳－』1983
- 7 大概真純・崎山正人「附載 牛坂・監物山古墳群測量調査概要」(『池の奥5号墳』福知山市文化財調査報告書第7集 福知山市教育委員会) 1985
- 8 崎山正人ほか『中之段4号墳』(『福知山市文化財調査報告書』第10集 福知山市教育委員会) 1986
- 9 京都府教育委員会『京都府遺跡地図』第2分冊〔第2版〕1987
- 10 小山雅人「野崎遺跡の削平された古墳群」(『京都府埋蔵文化財情報』第24号 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1987
- 11 崎山正人『駅南地区発掘調査報告書』(『福知山市文化財調査報告書』第16集 福知山市教育委員会) 1989
- 12 平良泰久ほか「丹波」(『前方後円墳集成』近畿編 山川出版社) 1992
- 13 小山雅人ほか「近畿自動車道敦賀線(8次区間)関係遺跡発掘調査報告書―福垣北古墳群・野崎古墳群―」(『京都府遺跡調査報告書』第17冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1992
- 14 両丹考古学研究会編『前方後円墳の出現をめぐって』(両丹考古学研究会・但馬考古学研究会交流十周年記念大会の記録) 1994
- 15 八瀬正雄「牧正一古墳」(『福知山市文化財調査報告書』第34集 福知山市教育委員会) 1997
- 16 綾部市教育委員会『綾部市遺跡地図』1998
- 17 三好博喜「由良川流域最古の前方後円墳の発見」(『あまのともしび―原口正三先生古稀記念集―』原口正三先生の古稀を祝い集い事務局) 2000
- 18 三好博喜「綾部・福知山市境 四文字山1号墳」(『太邇波考古』第14号 両丹考古学研究会) 2000
- 19 三好博喜「綾部市吉美地区で新たに確認した前方後円墳と中世山城 (1) 桧山5号墳」(『太邇波考古』第15号 両丹考古学研究会) 2000
- 20 三好博喜・井口一三「殿山古墳群測量調査概報」(『綾部市文化財調査報告第28集』綾部市教育委員会) 2000
- 21 平良泰久「丹波の分割」(『京都府埋蔵文化財論集』第4集 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2001
- 22 京都府教育委員会『京都府遺跡地図』第2分冊〔第3版〕2002
- 23 三好博喜「綾部市岫山古墳群―岫山3号墳の墳丘図から―」(『太邇波考古』第19号 両丹考古学研究会) 2003
- 24 八瀬正雄「妙見古墳群」(『福知山市文化財調査報告書』第44集 福知山市教育委員会) 2003
- 25 三好博喜「非対称の前方後円墳―綾部市上村7号墳―」(『太邇波考古』第21号 両丹考古学研究会) 2004
- 26 三好博喜「円墳群を従える前方後円墳―綾部市瀬戸18号墳―」(『太邇波考古』第22号 両丹考古学研究会) 2005
- 27 奥村清一郎「高槻茶白山再考」(『京都考古』第94号 京都考古刊行会) 2005